

令和6年度 第3回 川崎区地域福祉計画推進会議 会議録（摘録）

会議の概要

開 催 日 時		令和 7 年 3 月 18 日（火）午後 2 時から午後 4 時まで			
開 催 場 所		川崎区役所 1 0 階 第 1・2 会議室			
出席者の氏名	委 員 （敬称略）	牧岡 英夫 本橋 勇 宮越 隆夫	平野 忠雄 寺崎 伸一 中島 寛美	小松 繁一 山木 春雄 宮田 正行	飯嶋 礼子 七條 泰恵 渡邊 嘉行
	事務局	中山 健一（川崎区長） 田辺 智宏（川崎区役所 地域みまもり支援センター所長） 若尾 勇（川崎区役所 地域みまもり支援センター副所長） 早川 雄大（川崎区役所 地域みまもり支援センター 地域ケア推進課長） 三ッ橋 愛（川崎区役所 地域みまもり支援センター 地域ケア推進課 企画調整係長） 柴田 佑衣（川崎区役所 地域みまもり支援センター 地域ケア推進課 企画調整係）			
	関係課	吉川 アズサ（川崎区役所 地域みまもり支援センター 地域支援課長） 金子 幸江（川崎区役所 地域みまもり支援センター 高齢・障害課長） 石田 恭子（川崎区役所 地域みまもり支援センター 保育所等・地域連携担当課長）			
欠席委員（敬称略）		石川 直和			
次 第		1 開会挨拶 2 議事 （1） 令和 6 年度川崎区地域福祉計画の進捗状況 （2） 令和 7 年度の地域包括ケアシステム推進について （3） 情報交換			
傍聴人の数		0 名			
配布資料		・ 会議次第 ・ 川崎区地域福祉計画推進会議委員名簿 ・ 川崎区地域福祉計画推進会議開催運営等要綱 ・ 資料 1：令和 6 年度地域福祉計画進捗状況 ・ 資料 2：令和 7 年度地域包括ケアシステム推進について			
参考資料		・ 中央第二地区社協だより「きずな」 ・ 臨港中学校区「地域の寺小屋」体験活動チラシ ・ 田島社協だより			

議事要旨

発言者	発言要旨
議事（１）令和６年度地域福祉計画進捗状況について	
事務局 （三ッ橋）	＜議事１＞ 基本目標１基本方針１－３について説明
中島委員	今の説明について、委員の皆様からご質問やご意見はあるか。 話にもあった通り、危機管理担当による防災の出前講座や地域支援課による健康についての出前講座などがあるみたいだが、他に何か聞いてみたいメニューなどはあるか。 まず、団体等で出前講座利用されることあるか。包括では出前講座を利用している。町内会の方も利用しているのではないかと思う。 私が地域で見ていると、集合住宅のマンションのイベント時に、出前講座等を利用してもいいのではないかと思う。私が日頃利用していて、防災や健康講座があることはたまに案内が来るため、わかっているが、他にどのようなメニューがあるのか把握していない。例えば、出前講座が一覧であると使いやすいと思う。
宮越委員	１つ質問したい。事業番号１の渡田地区に町会ごとに福祉協力員を選出って書いてあるが、どのようなポジションなのか教えていただきたい。
早川課長	渡田では、町会長が民生委員さんだったこともあり、民生委員さんの活動を町会も手伝うという文化がある。それが福祉協力員で、ここではその取組を紹介させていただいている。
牧岡委員	渡田ではそのような形でやっているが、大島地区だと、地区毎の理事や地域で活動しているボランティアのような人たちに、委嘱状を出して社会福祉協議会としてお願いをしている。言ってみれば、意識的に見守りをしてくれる人のこと。 それから、横浜では民生委員１人に対して４人の福祉協力員がついていて、チームで見守り活動をしており、そのチームで個別のケースカンファレンスをする等、いろいろな形がある。 鋼管通の話が田島地区の項目で出ているが、見守り活動に２回ほど保健師に来てもらった。やはり、専門職の人に来てもらえると、敷居が下がって話がしやすくなった。これ以外にも警察や消防の方にも来てもらっている。そういう形で敷居を下げていくというのは大事な取組だと思う。 また、出前講座については、鋼管通に来てもらい、ヒートショック等の話をさせていただいた。その次の会で、ヒートショックの話から発展させて、今度は入浴の健康効果の話を私の方で提供した。１回話しただけでは、記憶から消えてしまうので、もう１回記憶を掘り起こして、積み重ねていくことが大事だと思う。高齢者を相手にしてやるのであれば１回きりだと、ちゃんと忘れてくれるので積み重ねて話していく必要がある。 こういう働きかけはもちろん行政側の保健師だけではとても難しいかと思うので、地域の受け止めた人たちが今度は発信者になっていくという認識ができていけばいい。話や講座を受けた人が受けたままではなくて、その人が周りに発信するということをしていかないと、ずっと同じところをくるくる繰り返している感じがもったいないと感じている。

早川課長	副議長から出前の一覧があるとよいという話があったが、みまもり支援センター内では出前講座をまとめた資料があるので、次回以降ご紹介できるかなと思う。それ以外にも、危機管理担当が防災出前講座をやっていたり、区役所ではないが、ゴミの出前講座を生活環境事業所がやっていたりする。
牧岡委員	ゴミの出前講座をお願いしたことがあるが、すごく良かった。とても賑やかな場となった。毎日やっていることだから、入り口としてはすごくいいなと思う。
早川課長	ゴミの分別は色々ルールが変わったり、プラスチックの分別が分かりにくかったりして地域の中でも少し混乱があったりする。そういう面でもニーズがあり良い取組だと思っている。
中島委員	出前講座はどんどん活用させていただいて、空白地帯のような届いてないところにも、うまく周知していけたらいいのかなと思う。 ほかに基本目標 1 の取り組みの中で、何か気になる取組はあるか。 なければ基本目標 2 について説明をお願いする。
事務局 (三ッ橋係長)	<議事 1> 基本目標 2 基本方針 1 - 3 について説明
中島委員	今の説明について、質問や意見はあるか。
牧岡委員	社会福祉協議会で、ふれあい会食会を実施していると思うが、コロナ開けた後にこう次々と辞めるという話を聞くが、事務局はどうか続けられるように支援する方法はないのか。また、ふれあい会食会は実数的に減っているのか。
早川課長	(ご欠席の) 石川事務局長にお聞きしないと実数はわからないが、コロナをきっかけに、一旦休止してそのまま再開の目処が立たない活動が多いという認識はしている。一方で、全市のふれあい会食会の数を調べたところ、川崎区は他区に比べてかなり多い。民生委員にご活躍いただき、多くのエリアがカバーできているためと捉えているので、そういう意味でも民生委員活動は非常にありがたいと思っている。
牧岡委員	合わせて注文がある。ふれあい会食会の対象年齢が 65 歳以上になっているかと思う。年齢で制限があるのは、しょうがないとは思いますが、地域の中には高齢者ではなく、障害者もいる。私のところでは、障害のある人も年齢は若い居場所として受け入れていた。それを報告したところ、その人をメンバーから外してほしいと事務局から言われてしまった。地域の中では、高齢者だけではなくて、障害のある人で居場所がなく孤立しているような方たちにも声をかけて一緒に活動したいと思っているのに、メンバー登録の時に、この方ちょっと若いから外してほしいと言われると腑に落ちない部分だったので、課題として考えてもらえるとありがたい。
早川課長	お気持ちは理解できるので、区社協にも相談したい。
中島委員	町内会にも入っていないと参加できないと聞いたこともあるが、参加できないのか。
牧岡委員	町内会の加入有無については関係ないが、町内会がそのことを理解しておらず、町会に入っていないから参加できない等と言って断っているところがあるというのは聞いたことがある。
中島委員	中央第一地区周辺の方々もふれあい会食会を楽しみにされていて、コロナ明けてから、も開催されておりかなりの方が出席している。 ボランティアについてはどうか。
牧岡委員	川崎区のボランティア連絡会が 3 月に解散した。メンバーが減ってきたことや担い手の高齢化で 24 年ほど続いていた連絡会が終了した。ボランティア団体の横のつなが

	りがなくなってしまうことに少し不安を感じてはいるが、当事者たちは連絡会の必要性やニーズを感じていないということも実体であるのかと思う。
早川課長	一方で、ソーシャルデザインセンターのサポートメンバーのような、新しいつながりも始まっており、今までの福祉的なボランティアだけではなく、もう少し緩やかな繋がりの中でお互いの活動を認め合うみたいの方が今の時代に合っているのかもしれないので、期待している。
牧岡委員	子育てサロンの様子はどうか聞きたい。
山木委員	20年にコロナが流行し、いろいろな活動が中止になった中で、ニーズがあったため、気を付けながら実施していた。その時でも8人ほど参加者がおり、コロナ禍でもこういう場所が必要だと分かったため、ずっと実施してきた。
三ッ橋係長	子育てサロンの話があったので、配布している冊子について説明させていただきたい。今年度、地域福祉計画を策定するにあたり、地域包括ケアシステムの普及啓発パンフレットの方を改定した。 以前は制度にフォーカスして、制度の説明や団体説明をしているが、今回は人にフォーカスをして、写真を多めに活動について説明している。 その中で、山木委員が活動していらっしゃる田島の子育てサロンも紹介させていただいている。紙面にあるQRコードよりインタビュー動画も見ることができるので是非ご覧いただきたい。
事務局 (三ッ橋係長)	<議事1> 基本目標3基本方針1-2について説明
中島委員	今の説明について意見や質問はあるか。 行政との連携による課題や成果等について障害の分野で飯嶋委員お願いできるか。
飯嶋委員	連携というと、行政の方で主催している会議での関わりが多い。 事業番号50にも記載があるが、虐待件数が多い。南部基幹相談支援センターは川崎区だけではなく幸区も管轄していて、それぞれの区からコアメンバー会議に呼ばれるが、市の虐待マニュアルが1本ある割には会議のやり方がバラバラだったりするので、きちんとマニュアルに沿って一緒に考えていかなくてはいけないなと思っている。
牧岡委員	川崎区の虐待件数はそんなに多いのか
飯嶋委員	数字として、全市の中で南部は多い。
中島委員	どうして南部で虐待件数が多いのか。
飯嶋委員	地域性とだけ言わせていただきたい。 ただ、報告される件数が多いというのは決して悪いことではなくて、潜在化していないということにも繋がる。疑いでも通報をいただいているので、件数として上がってきていることは、前回の会議で川崎区の見守りネットワークの事業の報告件数が多いということとも少なからず関連はあるかと思う。 数字だけではなかなか見えてこないが、事業者や周りの人たちがちゃんと見守れているという面もありながら、虐待に至ってしまうような状況で生活をしている方が多い地域であるということも事実だと思う。
中島委員	ケアマネ連絡会でケアマネとして虐待の研修等を行政と一緒にやっているかと思うが、成果や課題等感じているところあるか。

寺崎委員	成果という面では、何を持って評価するかというところがあるため難しいが、ある程度内容を変えつつ繰り返しやっていかないと定着はしないのは間違いないのかなと思う。 単発研修では知識を得て終わりになってしまうリスクも高く、ネットワークの構築という側面も含めると、何か別の手を考えてもいいのかなと思う。 さっきも話があったが、障害だけでなく高齢者虐待の件数も多いため、現場の底上げは継続的な目標として必要だと感じる
中島委員	医師会としてやソーシャルデザインセンター等で行政と関わりがあると思うが、成果やこれからの課題等あるか。
渡邊委員	虐待のコールを直接ソーシャルデザインセンターが受けた事例は今のところない。一方で学校医もしており、中学生ぐらいの子と直接関わることもあり、お昼過ぎから夕方親が帰ってくるまでラゾーナ等のゲームセンターに入り浸る状況になったりしているのはよく聞く。保護者への支援や環境も大事ではあるが、逆に子供たちの環境を支援していくことも必要だと思う。 生活環境自体にやっぱり問題があり、悩みや課題がたくさんあると思うので、居場所を作ってあげる必要がある。中島地区では、お金を払って教室に行けない子供たちだけのサッカー教室をやっているボランティア団体等がいろいろあり、普段だったらお金を払わなくてはできない経験を提供したりしている。桜本でも、朝鮮学校をうまく使ってサッカー教室を行い、そのコーチたちがある意味親代わりになっているいろんなマナーを教えたりしており、そういう場作りは必要なのかなと思っている。
中島委員	こどもの分野の話も出たので、こどもに関わっている方で、成果や課題はあるか。
宮越委員	この 11 ページの事業番号 58 にこども見守り活動の実施とあり、行政も幅広く活動しているのだと思って、驚いた。私の住んでいる小学校のことだが、地域の人たちの話し合いの中で、朝に子どもたちが門が開くのを待っていて、門の前にたくさん子供たちが溢れて、危険な状態になっている。校門前の歩道が他の人が使えない状態になっているため、もう少し早く開けることはできないのかという意見がでた。 私も先日、様子を見に行ったら、7 時 45 分の段階で子どもたちがあふれており、車が通る直前にも子ども達がふざけて道路に出てしまっていた。 登下校時間は小学校の校門前が封鎖されるものだと思っていたが、普通に車が通る学校もあることを初めて知った。そういう場所があるため、見守り活動について色々心配していた。 ただ、学校にその話をしたところ、4 月からは 7 時 45 分から開けるということになったので、少し安心したが、この状態を放置していたのは少し問題だったかとも思う。 家の近くでは、見守り活動をしてきていた方がだいぶ前に退職して、そのあと誰も朝の見守りしない状態。それでは危ないので田島町の町内会長が頑張って 1 人で活動をしている状況。教育委員会の方でも悩んでいるとのことだったので、地域と協力することがあればとも思っている。
中島委員	各委員の立場から課題に感じることを話していただいたが、包括も行政とは日々いろいろなことで連絡調整してしまして、個別ケースの問題や地域づくりのこと等、連絡を取らないことがないぐらい連絡取っているが、高齢・障害課金子課長の方からも、各機関や包括との連携成果や課題等についてお話を聞きたい。
金子課長	高齢者分野については、地域包括支援センターと民生委員の力がだいぶ大きいなと感じている。基本的に日々色々なことが起きていると思うが、よく区民のお話を聞いてくださっていると感じる。そこから行政でないと介入ができない虐待案件等の割と大きな権限を必要とする話等、必要に応じて区役所に話をいただく流れができており、

	うまく連携ができているなと思っている。 また、障害分野については、少し難しいところがある。というのは、ご自身や家族が地域の中で知られたくないという気持ちの方も多く、そういった場合はどこと繋がっているか分からないため、どのようにキャッチするのが難しく、課題だと認識している。もちろん、相談があれば、機動力を持って対応していくが、キャッチが難しく、どうしても後手後手になりがちになってしまっているのが現状。 高齢者の方も、認知症であることが、恥ずかしいと言う方も多い。それと共通する部分があるが、「恥ずかしい」や「知られたくない」という感情があると、支援が難しいと思う。ただ、そういうケースを変えていくには、日々の啓発として小さい活動がいろいろなところであると、そういった気持ちが楽になるのかなと思っている。 そのためには、委員の皆様の色々な活動などがあると、私たちもいろいろなものをキャッチして、それをフィードバックするという形が取りやすいのではないかなと思っている。 また、高齢者分野では、ケアマネジャーのおかげもあって介護サービスの比重が大変大きく、行政の提供しているサービスに加えて地域の色々なインフォーマル活動がうまく繋がると良いと考えているため、模索を続けている。
渡邊委員	今いただいた意見は、すごく大事なことだと思っている。行政も様々な取組を行っている中で、やはり問い合わせが来て初めて動くのはしょうがないと思う。さっきの子どもたちの学校の件についても、確かに朝の開校を早めにしてあげると子どもたちは守ってあげるように見えるが、今度は先生たちの役割がさらに増えている。 自分も往診していて、夜遅くや朝早く来て働いている先生が多いと感じており、そんな先生の仕事と責任を増やすのは本当にいいとは言えないと思う。例えばだが、学校の目の前が公園であれば、その公園で朝のラジオ体操している老人会の方々に、子どもたちと一緒に混ぜてあげる等、わざと時間をずらして見守りつつコミュニケーションを取る機会をつくるために区から委託して動かす取組等をしてもいいのではないかな。また、病院が朝の時間は空いている部屋があるので、あえて学校が開く前の時間にうちの病院のあるスペースを子どもたちの待機するために解放する等、既存のインフラとして使ってもらうとかは全然できるのではないかなと思う。 行政に全部押し付けたり仕事を増やすのではなく、周りのいろいろな方が少しずつサポートをすることで支援できる形が取れるといいのではないかな。 このようないろいろな案が皆さんから出てくると、川崎区ならではのものが出来そうで面白いのではないかなと思う。
中島委員	はじめに様々な実情を共有して、誰がどういうことで支援やサポートができる話し合いに進んで、何かうまく地域が潤滑していければ良い。 情報を出して実際にそこにアプライをする団体がモデル事業としてやってみて、どのようなアウトプットがあり、どのような成果があったか共有し、その成功事例を区全体としてどうするか話し合うという、pcdaが回せると良いと思う。
宮越委員	他の地域では朝に体育館で見守りをやっているというニュースも聞いていてウズウズはしていたが、今渡邊委員がおっしゃったようなことができるといいなという気持ちがある。
中島委員	地域力もあるかもしれないが、まずはそういう状況があるということが知らない方もいるので、こういう場で共有する等して、皆さんに知っていただき、だれがどんなことをやっていけるか考え、みんなで取り組んでいくことがいいかなと思う。 他に意見や質問等はあるか。

山木委員	3 管区は統合して区役所に集約されたかと思うがそのことについて話したい。 JFE の田島会館の近くで男の人たちが外に交通安全の見守りのために立っているが、「ここは田島支所か」と聞いてくる人がいるとのこと。これだけ周知しているはずなのに、まだ知らない人も多い。だから、道沿いの電信柱のところに矢印でもつけていただきたい。中にはお年寄りがいて、そこまで送っていったりもしている。 また、地区の保健師がみんな区に来てしまった。支所にいる時は、ちょっと相談したい時に窓口言って、呼んだらすぐ話ができていたが、今はそれができない。区役所までいくとなると億劫になって相談することもできない。 何人からかそういう話を聞いているので、出張所みたいに保健師が支所に来てくれるような場所ができたりはしないのか。
中山区長	田島支所の仮庁舎を間違えないように電柱に矢印をつけるという話は、3 月末くらいから案内を出す予定。今月末までには、設置する予定。
牧岡委員	12 ページの事業番号 61 の川崎区地域自立支援協議会との連携について教えてもらいたい。自立支援協議会の開催で地域の問題を抽出し、地域課題を明確化して、地区レベルでの課題解決という記載があるが、川崎区独特の課題があるのか。
飯嶋委員	地域自立支援協議会は障害の分野でやっている協議会だが、以前は、宮田委員にも出ていただいていたが、相談支援センター再編の頃から内容が変わって、今は正直盛んに協議している感じではなく、何が区独特の課題かと言われると難しい。
金子課長	今年度の動きを説明すると、障害分野で、川崎区だけのことではないが、グループホームを見つけるのが大変という声が上がリ、テーマとして話し合った。 ただ、これをやれば大丈夫という特効薬はなく、川崎区に限った課題ではないので、川崎市全体の課題としてあげて、一緒に考えてもらうという整理をした。 自立支援協議会の出席者は地域の支援機関の方なので、各支援機関での困り事を共有したり、助言をしたりしながらお互いがお互いを支えるような場としても活用している。個々の機関だけでは解決できないことも相談としては舞い込むので、そのためにこういう場があると、あの人に聞いてみよう等と広がっている。課題解決を目的として行っているのではなく、解決するための地力を底上げするという意味では、毎年成果が上がっていると捉えている。
吉川課長	支所再編前は保健師に気軽に相談ができていたのにというところだが、保健師もとてもそれを気にかけている。ちょっとしたことで相談に来ていただいていたが、それが難しくなってしまうのではないかと懸念している。そのため、できるだけ職員が出向くよう心がけている。連絡をもらえば出向くので、なにか気になることがあれば気軽にご連絡いただけるとありがたい。 身近な存在という認識はなかなか難しいかもしれないが、その分出向くようにしたいと思っている。
議事（2）令和7年度地域包括ケアシステム推進について	
事務局（三ッ橋）	<議事2> 資料2について説明。
中島委員	今の説明について何か意見や質問はあるか。
牧岡委員	この検討会の中身をどこかのタイミングで地域の人たちと共有するような場を設ける必要があると私は感じている。地域のリーダーの人たちや地域で活動している方たちと共有することは必要。 例えば、小田と田島について、連携が難しいというような一節が書いてあったが、7、

	8 年前にね、田島地区と小田地区の住民に意識調査をしたことがあり、その際に、イメージとして両方の地域の人が連携は期待していない、したいと思っていない、むしろ別々にやりたいというのが、生活圏の意識としてあった。こういう話で住む人と感覚が違う場合があるため、そこをすり合わせていく必要がある。
早川課長	取組を具体的に実施するには、行政内部の係長級だけで進めることはできないので、当然、地域の方にはご相談や共有をしながら進めさせていただく予定である。取組がどうなるかはまだわからないので、どのような流れでご協力いただくかを明示するのは難しいが、いずれにしても、地域福祉計画推進会議は 3 回あるので、中間報告等を行い、意見をいただいたりすることと思う。地域あつての地域づくりなので、地域の人の意見は反映させていただきたい。
中島委員	議事 3 の情報交換に入る。 皆様の取組の中で情報共有をしていただきたい。
渡邊委員	川崎市の在宅療推進協議会をさせていただいており、介護サービスについて国の方で出ている方針としては、要支援の時点で、道具等のサービスを入れたり、まちづくりの中で認知症にならないようにケアしていくという方針が出ているが、川崎市は少しオリジナルで、厚労省が出している方針の 1 個手前の時点の要支援になる前の時点から、その方をどうサポートできるかを考えるという計画になっている。 今、幸区と麻生区をモデル地区として実際にやっている。例えば、高血圧だが病院には通ってない、クリニックには通っているがまだ元気のような 65 歳を超えた方を対象に、最近お祭り行っているかや何か趣味があるかというのを聞いていき、その人の生活の活動度がどれぐらいかをある程度見ている。丸 1 日家でテレビを見ていることが多いという人たちに、何かイベントに参加してみましょうと少しずつ誘導した場合、そういう方々がどれだけ元気を維持しながら生活ができるかという事業を行っている。 市の地ケアが動きだすと思うので、うまい具合に区とも連携するような形が取れると良い。それをここで話しているようなイベント等とうまく連動すると、面白いことができるかなと思っている。
山木委員	区民事協としては、来年度はですね、食糧支援としてみんなのご飯を長期休みに入る前に実施していこうことで 7 年度の計画を進めている。 加えて、大師高校の放課後カフェが始まったので、そのサポートもしていこうと思っている。ふれあい館がやっている取組だが、応援要請があったので、区民児協としても協力することとなった。飲み物とお菓子の用意をして配ったり食糧支援のために米の配布も行ったりしている。 また、田島地区の方ではカレーサロンも引き続きやりたいということで、2 地区 1 回ずつ、全部で 4 回は最低やりたいと思っている。ただ、まだ地区社協の総会を開いてないので、そこで承認がおりないと実施できない状況ではある。一応、なんとかやる方向ではある。
本橋委員	この間、子ども会の会長から、若竹会の存続ができなくなり、次回入ってくるのは 2 年後で間はもういないとのことだった。町会もなかなか入っていただけないという状況がある。この間も、若竹会の会費はいらないが制約があるので町内会には入っていただきたいという言い方をしようとは思っているが、今まで会費を払っていただいている方もいらっしゃる手前、その辺りが少し難しいかなとは思っている。町内会の先行きが心配なので、人に入ってもらえるよう取り組んでいかなくてはならないと思っている。

宮越委員	地域協議会の方で、チラシを 1 枚配布している。 このチラシは 3 月 22 日に富士見公園を使った小さなイベントを予定している。 寺小屋事業と連携するということで、このようなチラシで参加者の募集をしている。 また、富士見公園も中にある冒険土も使えるようになったので、子どもたちのための成長の場に作り上げることが私の狙い。今回はチラシにあるよう、いろいろな興味を引くものを用意した。 しかけのメインは子どもたち大好きなターザンロープで、あとは、ボール遊びはできないということで、それに代わってフリスビーを使ったドッジビー等いろいろな遊びを予定している。普段の公園ではできないようなことを準備しているところ。 中でも夢中になるだろうというのは穴掘りですね。その夢中が次に遊びの想像力や皆と遊ぶことの楽しみに繋がっていきばいいなと思っている。今回は 1 日だけのイベントなので、これからは土日に行けばそこで何かやりたいことが見つかり、すごく楽しいと思ってもらって、いろいろなチャレンジをしてもらいたい。なので、あそこに 1 人で行ってもすごく楽しいことをみんなできるという雰囲気を作っていきたいなと思っている。 不登校やいじめ等の様々な困難を抱えている子どもや若者たちとの接点が皆様にもあると思うので、あそこの遊び場楽しいよと案内してもらえるとありがたい。
宮田委員	障害者団体としてというのではないが、地域の会員から、支所が移転したことで、行政の手続きをする場所が遠くなってしまい大変だという声が上がってきている。
平野委員	1 月発行した中央第 2 地区社協だより絆を配布している。2 ページに健康に関して普段取り組んでいることや思っていることを記載した。健康は自分で保つもの、増進するもの思っている。 こういう考えは、日本より海外の方が自分で健康を守るという意識が高い。自分の努力で、筋肉と脳は鍛えることができると言われていた。 健康を保てるという、高齢者は健康増進のために自分で努力する必要がある、自分で健康を保てない障害者や赤ちゃんへの福祉を手厚くする必要があるのではないかと考えている。 また、地域福祉計画の内容について 1 つ提案をさせてあげたい。デジタルに関してあまり触れていないので、地域福祉計画とデジタルというものがなんか連携できないものかと期待している。
寺崎委員	先ほどから、話題に上っているが、やはり区役所に機能が集約したことで、高齢者の中には区役所に行くことが大変だという方が多く、ものによっては私で代行できる手続きは、手伝っている。 委任状を書いたら、代行できる手続きはあるが、なかなか全てのことを賄えるわけではなく、特にマイナンバー等の、個人情報やデリケートな部分は手続きしきれてなくて、申し訳ないと思うところがある。時期的には身体障害者手帳を持っている方のタクシー券の配布時期だが、3 地区が一気に集まったので、初日に並んだうちの職員が例年よりも行列が長かったと言っていた。 高齢者の方についても、区役所へのバスに乗れば良いと思っても、バスで転倒して骨折や入院をされた方もいるので、バス便があればいいのかということではないのではないと思う。高齢者のスマホの保有率も大分上がっているが、電子申請をどこまでできるかと考えると難しいところ。進んでいる方はもう高齢の方でも結構いろんなことができるが、一方で 1 つの機能しか使えない方もいる。 利便さというのはどこにあるのかなと、機能集約の時にふと考えるようになったので自分も少し意識的に、高齢者と関わる時に色々と注意して考え、またお手伝いの仕方

	をちょっと検討していく必要があるのかなと思っている。
小松委員	老人クラブの実情として、大師第1地区でいうと、会員が昔は3000人ほどいたが、今は2000人切っている。町会と同じように、人がどんどん減っている。昔は男性の方が圧倒的に多かったが、今は男の人が減っている。その代わり、女の人が増えた。女性の会長もいる。私も理事としてこれから何年できるか分からない。私の後に誰が理事をしてくれるのかを考えているところ。
七條委員	0歳児の多国籍のケースが多く、毎年受け入れているのだが、今回初めて0サイズクラス、9人中4人が日本在住の方で5名が多国籍の方が入園することとなった。今までも様々な国の方がいたが、今回初めてネパールの方が入ってくる。 お父さんは在住が長く日本語が話せるが、お母さんは後から来ているので日本語が全然わからないということが比較的多いが、お迎えにくるのはお母さんの方が比較的多く、送り迎えの際の会話がなかなか難しい。どういう風に職員とお母さんがその言葉の壁を乗り越えていくかということが課題だなと思っている。田島地区はそういう園がすごく多いため、園長会でも言語の壁という話は毎年議題としてあがっている。田島地区は桜本にふれあい館があるので、通訳等のサポートは受けやすいが、毎日のことなので、どういう風に対応するかということが課題だなと考えている。 特に赤ちゃんだと初めて食べるものがあるとアレルギーの問題もあるので、お家でちゃんと食べてから保育園でも食べ始めるが、その話ができない。また、高野豆腐等の日本独自の食についても説明が難しい。お母さんと一緒に食べて、日本の食事を知ってもらうのが良いと思っているが、そういうことについて、いろいろな方からアドバイス等をいただけるとすごくありがたい。
飯嶋委員	支所再編については、私自身は今までも区役所に来る機会はたくさんあったので不自由はなく、逆に田島支所や大師支所の職員たちとそれぞれでやっていたことが、区役所に来れば1回で終わるようになったというところでは、仕事としては効率化されたなと思っている。ただ、その反面で大師や田島の利用者の手続きを全て私たちが代行すればいいという話ではなく、それをしてしまうと、逆にその方が外へ出て自分のことを自分でやる機会を奪ってしまうことになってしまうので、そのところを少し考えていかなければならないなと思った。 先ほど地域自立支援協議会の話があり、川崎区特有の課題はなんだろうと考えていくと、もしかしたら、地域課題としてはこういうことなのかもしれないと思う。宮田委員にも一緒に入ってもらいながら、そういうことを考えていければ良いなと思った自立支援協議会は障害のある方々が地域でより良く暮らしていくための課題を、その方たち中心に考える場所なので、こういう本当に地域の目の前にある問題や課題を拾い上げて、1つずつ話をしていけると良いと思う。とりあえずは遠くなってしまったが、どうやったら利用者の方が今までできていたものを担保できるかを一緒に考えていけたらいいかなと思っている。ちょうど次年度の事業等を考えていく時期ではあるので、センターとしても何か事業に取り入れていけたらいいと思う。皆さんとのネットワークの中で一緒に考えていただけたことがあればぜひお願いしたいと思う。
牧岡委員	前回の時から今日までの間でちょっと私の周りで起こっていることや聞いた話を共有したい。まず、ショックだった話だが、子どもたちの中で覚醒剤のオーバードーズがすごく広がっているということはいろいろなところで聞いてはいたが、それが低年齢化しており、小学校4年生、5年生でも出てきているという話があった。 それにどう関わっていったらいいかという議論になったが、結論は見えなかった。専門職の議論だったが、状況はわかるけど入りづらく対応は難しいという話があった。それから2つ目が、資料の5ページの子育て支援についてみていたら思い出したが、

	今から 10 年ほど前に鶴見区と神奈川区のケアプラザで行っている子育てサロンに、支援をするために訪問していたことがあった。その中でお父さんたちの時間をどんどん作っていった、お母さんと子供たちの脇で来たお父さんたちで土日にいろいろな話をしていたところ、3 年目にお父さんたちのサークルが出来上がった。 その人たちに去年会う機会があり話を聞いた。子どもたちは皆中高校生だが、お父さん同士がいまだに繋がっているとのことだった。そのうちの何人かはね、pta の役員や子供会、青少年指導員をやったりして地域に繋がっている姿を見て、やはり子どもが小さい時から地域との繋がりがあると、このような形で進んでいくのだなと感じた。川崎でも、子育てサロンに行っている、子どもが大きくなって卒業してしまうと大体繋がりが終わってしまうことが多いが、その卒業した人が支援者になる可能性もあるため、お父さんたちをそこで捕まえておくのと良いかもしれない。お父さんたちはカメラかなにか持っていないと居場所がないことが多いので、いい場面を作っておくことが良いのではないかなと思った。 それから、11 ページの子どもの見守り活動で、地域の子ども安全の日に皆さんでこう集まって見守り活動をしてほしいというような提案が担当の方からあったが見守り活動は既に町会が分担してやっている。そのため、この日に集まれと言われたから、自分たちはやっているからと言って、誰も行かなかった。残念ながら、やっているからで終わっちゃっていて、やっている中身をどうしようかっていうような話になっていないので、これからは、もう少しそういう話もしていかなくてはと思うが、なかなか地域というのは、やっているからそれでいいよみたいな雰囲気がある。 最後に 13 ページのカレーサロンの立ち上げ支援について、先ほど山木委員からも話があったが、田島地区社協の新聞でも取り上げた。 1 ページ目にカレーサロンの様子や山木委員インタビューも掲載している。その次の 2 ページ目には、ボランティアグループがやっている子ども食堂みんなのご飯の活動を掲載している。 nhk の取材が入り、2 回テレビでも報道されている。昨日も様子をのぞきに行った。すごくいいなと思ったのは、食べる時に幼児を連れのお母さんたちがいるテーブルの隣のテーブルで、お年寄りが話していたのだが、そのお年寄りが幼児にもしゃべりかけたりする場面がみられた。 始まってから半年過ぎたが、顔見知りも増え、随分いい雰囲気が出てきている。 最初に行った頃は、テーブルごとで賑やかだったが、テーブルを超えて話すというのはなかったが、顔見知りができているのか、すごく狭い食堂がうるさいくらい賑やかになっていて、これが繋がりがだよなと感じた。 活動の中心で動いているハヤシダさんは、大きいものではなく、このような小さい活動がいっぱいできるといいと言っていて、それには私も大いに共感したが、なかなかハヤシダさんのようにここまで投資してやるのは難しい。 やはりどこかが、金銭的なものを含めて立ち上がりからサポートするようなことができると、もっと踏み出せるのかなと感じた。 そして、右のページのふれあいの家ひまわりもなかなか面白い形になっている。すごく印象的だったのは、職場からリタイアして、その地域に住んでいる方たちだが、話を聞いていたら、お子さんが小学校に行っていた頃の pta の活動等の話を懐かしくこう話していた。まさしく昔のこと思い出す回想法で元気になっていく様子がみれた。こういう空間も本当に大きなくて良くて 10 数人の小さなこういうテーブルがいくつもできるといいのかと思って、今回その辺を特集して載せた。
中島委員	色々な情報を提供いただきましたが、他に確認したいことや話したいことはあるか。

	なければ、以上で本日の議事は全て終了する。
事務局（早川課長）	来年度 1 回目の会議は 7 月頃の実施となる。スケジュールが決まり次第、委員の皆様には改めて通知をお送りする。
事務局（田辺所長）	（閉会の挨拶） 本日は様々な体験談やご意見をいただき有意義な時間になったかと思う。今後の川崎区の地域ケアシステムの推進にも活かしていきたいと思うので、来年度以降もよろしく願いしたい。

以上